



コア技術で探求する快適空間

環境に寄与する技術を積極的に用いて、形状・素材・工法・環境など多面的に
シール&フォームエンジニアリングを深耕し、クルマや住宅の室内環境の快適・静寂・安心を実現します。



シール&フォームエンジニアリングを支えるコア技術 “発泡・連続押出・止水設計”

「己の立てる所を深く掘れ そこに必ず泉あらん」。
この経営理念の言葉にあるように、当社はコア技術である“発泡・連続押出・止水設計”を己の立てる所とらえて事業を展開しています。そのメイン製品がウェザーストリップ。これは単にドア周りの止水をするだけでなくさまざまな役割を合わせ持つ部品で、やすらぎの車室内空間を支える縁の下の力持ち的な存在です。そして、当社はこの立ち位置を深く掘りながら、その活動の間口が自然と広がり、それが事業拡大につながるよう日々活動をしています。



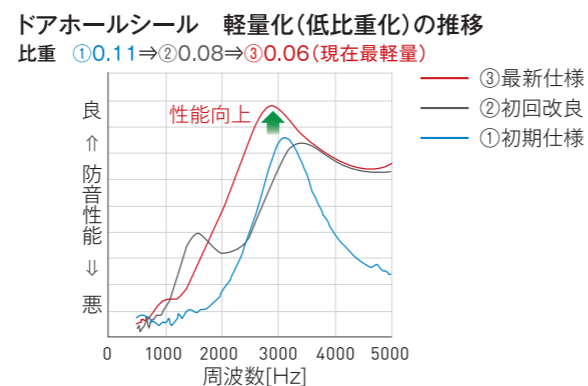
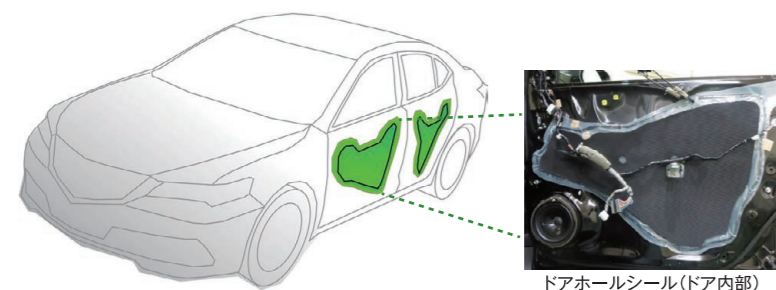
さらなる高発泡化で静粛性アップ “ドア内部防音・防水材ドアホールシール”

ドアホールシールは、ドアトリム内部のドアパネルに組立作業目的や軽量化目的のために空けられたサービスホールを塞いで雨水や騒音の進入を防ぐ平面状シール材です。既定の厚さスペースで効果を確実に出すことが必要で、ポリエチレン製や不織布製のものもありますが、当社はこれを一貫してスポンジゴムをメインに構成し、数々の登録特許もここに織り込んでいます。また、紐状のウェザーストリップと違い、幅広平面状の形態を連続押出するには多くのノウハウも必要とされます。

2021年度は、基本開発を終えてその後に車両適用設計をした新タイプを、まず米国を皮切りに上市いたしました。
この新タイプは、従来品からさらに低比重・高発泡・最適形状化させたもので（現在、比重0.06で最軽量）、発泡&連続押出をコア技術として深耕させる当社技術の真骨頂というべき新開発品です。これにより従来より広い音域での静粛性向上を達成し、加えてオーディオ低音領域でのビビり音(*)も防止しています。

今後、これを日本国内を含めてさらにグローバル展開していくとともに、さらなる快適空間・やすらぎ空間を追求し開発を継続してまいります。

*:一部の部位・部品が小振動することで発する不快音



オール樹脂化で軽量化かつ意匠性向上 “ヒドンガラスランチャンネル”

当社では、自動車ドアウィンドウ回りのシール材のガラスランチャンネルに周辺部品の役割を取り込んだ“ヒドンタイプ”を新たにバリエーション展開しています。

このヒドンタイプは、ドアフレームへの保持の目的で比重の大きい硬質ゴムで構成され、かつ剛性を維持する目的で内部に金属製芯材が配置されることが一般的でしたが、結果として部品の重量が重くなっていました。

そこで当社は、通常タイプで培ってきた樹脂ガラスラン技術を生かし、基幹部分を硬質ゴムより比重の小さいTPE樹脂へと置き換えるとともに、保持部分を高硬度樹脂で構成することで内部に金属製芯材を配置することなく剛性・保持力を担保した、先進の「オール樹脂 ヒドンガラスランチャンネル」を開発しました。これにより、従来の硬質ゴム仕様と比較して約30%もの重量低減を達成しています。(*)

そしてもう一つ、このヒドンタイプは、車外側ウィンドウ上部に見える“モールの見え幅”を低減することができるメリットも有しています。

これは車両の見栄え・高級感を大きく向上させる効果につながり、車両の価値向上にも貢献できるものと捉えています。当社はこのタイプを今後さらにグローバルに採用を拡大してまいります。

*:形状、長さは同じとし、単純に材料を置き換えた場合の重量計算結果



ヒドンガラスランチャンネル

